

会員発表紹介

インスリン自己注射患者に対する取り組み チェックシートを利用した連携指導の継続

平鹿総合病院 薬剤科 ○中島範子 大隅厚 加藤千里
平鹿調剤薬局 和賀皓子 照井幸野 高橋茂

【目的】

現在当院では外来通院中の患者に対してのインスリン指導を薬剤師が行っている。しかし、このインスリン指導は一回限りとなっており、患者が実際にどこまで理解できているかアセスメント出来ていなかった。また、インスリン指導の統一されたマニュアルなどはない状態であり、指導を行う薬剤師によって指導内容が異なっているなど様々な課題点もある。

そこで、患者に対してより良い指導ができるように、統一した評価及び指導のためのチェックシートの作成をすることにした。さらに、患者への指導の機会を増やすことで、インスリン療法さらには糖尿病治療への理解が深まるのではないかと考え、調剤薬局と連携し共通のチェックシートを利用して指導と評価を行うことにした。

【方法】

医師、看護師にインスリン指導に関するアンケートを実施し、薬剤師に指導してもらいたいと考えている点を調査した。その後、アンケート結果をもとにインスリン指導チェックシートを作成した。チェックシートには10個のチェック項目が記載され、その各々について患者の理解状況を3段階で評価するようにした。このシートを調剤薬局と共有し、外来通院時及び調剤薬局来局時に患者の理解度を評価していくこととした。

【結果・考察】

チェックシートの運用を通してお薬手帳だけではわからない情報を病院薬剤科と調剤薬局とで共有できた。また、簡易的なものではあるがチェック項目を作成することで、どの患者にも統一した指導を行うことができた。さらに継続してチェックシートを利用することで患者の理解が不足している点が明確になり、個人に合わせた指導が可能になった。

また、調剤薬局では、病院と連携しているとわかると患者がいつもより積極的に話してくれるといった報告もあった。病院薬剤科と調剤薬局とが連携することで患者が安心して治療に前向きになれるのではないかと考えられている。

【今後の課題】

今回はインスリン治療患者のみを対象にしてチェックシートの運用を行ったが、注意が必要な糖尿病薬は多くある。今後はインスリン以外の薬にも対応したチェックシートも作成していきたい。

また、待ち時間を利用した指導時間の確保の点、評価にばらつきが出ないように共通の評価基準を整備する点が課題として考えられる。その他、外来診療科への効率的なカルテバックの方法も検討が必要だと考えている。